

東北大学東北アジア研究センター公開企画報告書

文責：公開講演会シンポジウム企画委員会（高倉浩樹）

<見る、さわれる、知の旅>

トナカイ！トナカイ！！トナカイ！！！ 地球で一番寒い場所での人間の暮らし

日時：2008年12月12日（金）～14日（日）

場所：せんだいメディアテーク5階ギャラリー-b2

入場者数：1045名！！

協力：北海道立北方民族博物館

後援：地域研究コンソーシアム



1. 企画のねらい



本企画は、文化人類学の研究成果に基づいたシベリア先住民の狩猟牧畜世界を、映像とモノを通して広く市民に理解してもらうことを意図するものである。企画者の高倉が1994年以降の現地調査で収集してきた民族標本資料(民具)および民俗写真資料を利用して、子どもからおとなまでが楽しめる参加型の展示会を行うことであった。日本に暮らす者にとって遊牧という生活様式、家畜群という存在、さらに毛皮の民具はなじみが薄い。それゆえに、トナカイ

の大きさや群れという存在感を実際に理解してもらうとともに、天幕やソリ、さらに毛皮の衣服などの生活用具をさわってもらい、さらにタイガやツンドラの自然景観を具体的にイメージできるよう心がけた。また、大学の研究室を復元することで、調査地と大学研究室のいわば企画者にとって通常実践している「旅」を、来場者に再体験してもらうような会場作りを考えた。来場者が、いわば展示という異空間を積極的に体験しながら、展示対象となった人々に対して共感性を高めた上で、シベリア先住民の文化と現在について知識を得てもらうことを本企画は目的としている。

2. 展示内容

展示は二つに分けられる。一つは、シベリア先住民の狩猟牧畜文化に関わる映像資料と民具である。これらの研究資料のもつ異文化理解のための喚起力を最大限に生かすため、木を運び入れ、森の雰囲気を作った。またトナカイという動物個体の存在感そしてそれが群れを形成しているという事態を理解してもらうために、実寸大トナカイを発砲スチロールで作り、会場内に配置した。さらに、天幕やソリの実寸台模型をも制作した。こうした会場の中で、写真資料は全部で92点、民具資料は37点を展示



し、これに解説のためのテキストパネルを6点加えて展示した。写真資料の大きさは、A0サイズの巨大な写真を11点用意した上で、同時にA3サイズないしA4サイズの写真を組写真的に配置することで、インパクトのある映像と説明的な映像を組み合わせた。写真は、「群れ」「天幕」「遊牧」「祭」「食」「搾乳」「放牧」「漁撈」「耳印」「騎乗」「鞍」「ソリ」「補修」「投げ縄」「皮革なめし」「人々」という形でテーマを設け、そのなかに4～6点ほどの写真をグルーピング



した。また調査中の出来事や、そこで生活をする中で感じたり考えたりしたことを、長さ 50 センチ幅 10 センチほどの紙の短冊に手書きした(30 個)。これは、通常学術論文にはならない、調査者の調査中の経験を文章にして、来場者に読んでもらうためである。これを通して同じ仙台市民である人類学者が何を感じ、何を見ながら現地調査をしているのか来場者に共感をもって理解してもらえる工夫をした。

展示室は、もう一つ存在し、それは高倉研究室の復元である。ここでは研究室の書架を実寸大で書き、さらにテーブルと椅子も置き、シベリア民族学に関わる研究書籍、写真集、子ども向け童話や昔話、現地の新聞などを自由に閲覧できるようにした。いわば、研究者が現地調査から帰国し、資料を分析する現場を体験してもらうことを試みたのである。来場者は実際に、椅子やソファに座ってもらい、書籍を手にしたりする姿が見られた。さらに、展示会場を出るときには、「シベリアへの手紙」という形でのアンケートを実施した。これは、仙台市民がシベリアの生活をどのように感じたのか、先住民に向けてメッセージを送るとい



う形になっているものである。実際に、アンケートの説明では、次回の現地調査の際に、企画者がそれらをまとめて現地社会に伝える旨説明した。その結果回答数は 111 通であった。



その他、会場の中では、シベリア先住民の民族学資料をより専門的に収集展示する北海道立北方民族博物館の紹介パネルと友の会のチラシを配置した。同博物館は、東北アジア研と部局間協定を締結している。また、これまで高倉が撮影した民俗写真は二度国立民族学博物館監修の写真雑誌「季刊民族学」に掲載されている。この該当号を置き、卸値で販売した。会場の入り口には、高さ 3.1m 幅 2.1m の巨大なポスターを貼ることで、メディアテーク 5 階に来場した人に、一目でこの展示がわかるような工夫を行った。さらに、来場者へのプレゼントとして、チラシを元にしたポストカードを一枚づつ配布した。



3. 実施体制

この企画は、公開講演会シンポジウム企画委員会と広報委員会によって実施された。とはいえ、実質的な企画運営は、企画委員会の高倉と広報委員会の徳田を中心にして、学内の教員および院生・学生、さらに外部の専門家によって構成される公開企画プロジェクトチーム＝トナプロチームによって実施された。また、展示会開催前後の搬入搬出および会場管理は、学生ボランティアの協力によって実現した。この企画の最大の特徴は、大学外のアート系の職業専門家と共にチームを作ったことである。その核となったのは、東北アジア研究センターリサーチフェローであり職業写真家である斎藤秀一氏である。そして彼の友人である千葉真弓氏(漫画家+町おこしプロデューサー)さらに千葉真弓氏の友人である千葉義人氏(空間デザイナー)が加わった。さらに文学研究科文化人類学助教久保田亮氏、センターの元教育研究支援者であり現在情報科学



研究科助教の牧野友紀氏という部局を超えた研究者が集い、さらに環境研究科の大学院生及び文学部・工学部の学生が加わるという多様な専門と組織から人が結集したことである。高倉と徳田は、「東北アジア研公開講座関連展示企画検討のためのワークショップ」を4回開催したが、このなかで特別講師として呼ばれた職業専門家、関連するのではないかとして参加が呼びかけられた他部局の研究者および院生・学生が、議論を積み重ねる内に、チームとして組織という形を形成し、実質的な実施体制を担うに至った。



4. 広報体制と搬入搬出

今回は、従来公開講演会で行ってきた河北新報夕刊の行事紹介、市内の文化施設・書籍店や昨年の来場者・懇話会会員など広報活動に加えて、より広範な広報活動を行った。特に関連企画の広報と合わせて、Sスタイルといったタウン情報誌、またチラシを市内のカフェや居酒屋などにおくなど広範な広報体制を敷いた。その結果、2008/12/5 付けの河北新報夕刊でのシベリア民族学についての高倉の研究紹介記事などもあったほか、開催日の12日早朝にはNHKの取材も行われた。同された。こうした周到な広報体
台光のページの開始日ズンなどとも重なったことも録した。搬入は12月11日午



日昼のニュースでは紹介番組が放映制の構築、さらに開催日の12日は仙と重複したこと、またクリスマスシーあり、来場者は三日間で1045人を記前8時から開始し、終了は夜8時。こ



のときには、ボランティアおよび業者を含めて25名が参加した。展示会開催中は、一日を3シフトにわけ、常時6-7人程度が会場にいて来場者に対応した。14日の最終日は18時から18名で撤収作業を開始し、19時半には終了した。搬出作業は翌日15日の朝から行い11時には完全に終了した。

5. とりあえずのまとめ(高倉のつぶやき)

1045名という来場者の数は、驚異的である - このように述べたのは、トナプロチームに関わり、町おこしプロデューサーを行っている千葉真弓氏の言葉である。準備に関わった者だれ一人としてこのような入場者数を予想することはできなかった。幾人の来場者から、この展示会が「本当におもしろい」という声を聞いただろうか。それは従来の博物館展示などと比べて、体験と実際にさわれることを全面的に出した参加型展示だったからとも解釈できるが、なぜこれだけ多くの人に来てもらったのかは、未だわからない。その理由を考えることは、今後の課題となる。



人類学の研究資料でしかない写真資料と民具資料が、クリスマスとトナカイという季節的な偶然性はあるにせよ、これだけ多くの人に見てもらったのは私にとってはじめてのことである。研究資料の素材としての力を、私自身全然理解していなかったのではないかと自問し始めている。

今回の展示で最も楽しかったのは、トナプロチームに関わった人々の議論だった。専門の違い・年齢の違い・立場の違いを超えて、人類学<文化系学問<大学という領域で扱われる「資料」が、いかなる社会との接点を生み出しうるのかについて議論を続けるという、半年間続いた熱く濃密な時間を彼らと過ごしてきたからである。いうならば、研究資料と

研究者自身が媒体となって、学術と社会との臨界をいかに自分たちのやり方で作ることが可能な
のか、これを求めてトナプロチームの11名が実践してきたのが、今回の展示企画だったのでは
ないかと思っている。

トナプロスタッフ

代表 高倉浩樹（社会人類学、東北大学教員）

徳田由佳子（シベリア地域研究、東北大学教員）+ 久保田亮（文化人
類学、東北大学教員）+ 牧野友紀（社会学、東北大学教員）+ 朝山慎
一郎（東北大学院生）+ 兼城糸絵（東北大学院生）+ 三浦達尋（東北
大学学生）+ 澤野正樹（東北大学学生）+ 斎藤秀一（写真家）+ 千葉
真弓（漫画家）+ 千葉義人（空間プロデューサー）



撮影：斎藤秀一（東北アジア研リサーチフェロー）+ 高倉浩樹

参考資料

公開講演会チラシ&ポスター / ポストカード

